

梅雨時の栽培管理

本格的な梅雨になると、枝葉や下草が過繁茂して風通しが悪く、園地内は高温多湿の状態となり斑点落葉病、褐斑病、ナミハダニなどが多発する恐れがありますので、発生予察情報と観察を重視し早期発見、早期防除を徹底します。降雨が多く、散布作業が難しい時期ですが、散布間隔を守りましょう。



【斑点落葉病：新梢葉の被害（展葉して間もない新梢先端部で多発する）】



【褐斑病：被害葉と病斑（黄化葉および緑色葉の褐色病斑とも本病による）】



【ナミハダニ：雌成虫と卵】

◇写真：【社団法人 岩手県植物防疫協会】発行

「いわて農作物病虫害図鑑」（Ⅱ）リンゴ・桑編より



【わい性樹の樹冠下は、葉への養水分が供給できるようにする。】



【不要な徒長枝を除去する。】



【果実周辺の葉に光を十分に当てる。】

7 月半ばを過ぎると、仕上げ摘果も終わり、これからは果実の肥大を促し、品質を高める重要な時期となります。そのため葉や果実を病害虫から守り、日当たりをよくして葉の光合成能力を高めるとともに下草は早めに刈り取り、養水分の供給が潤沢にできるよう管理する必要があります。